

2026年3月期
(第103期)
通期決算補足説明資料

2026年5月12日



扶桑薬品工業株式会社

(東証PRM 4538)



2025年度通期決算補足説明資料の内容

- ◆ 2025年度通期 業績ハイライト
 - 2025年度通期 営業利益増減分析
 - 主要領域別売上高(推移)
 - 主要領域別売上高(同期比)
 - 主要領域別売上高(医療用医薬品製品別)
 - 医療用医薬品の売上構成
 - 2026年度通期業績予想
 - 研究開発の進捗
 - 中期経営方針の進捗
 - 株主還元



2025年度通期 業績ハイライト

(単位:百万円)

売上高

営業利益

経常利益

当期純利益

2025年度

62,307

2,639

2,349

2,011

対前年

+1,744 +2.9%

▲1,491 ▲36.1%

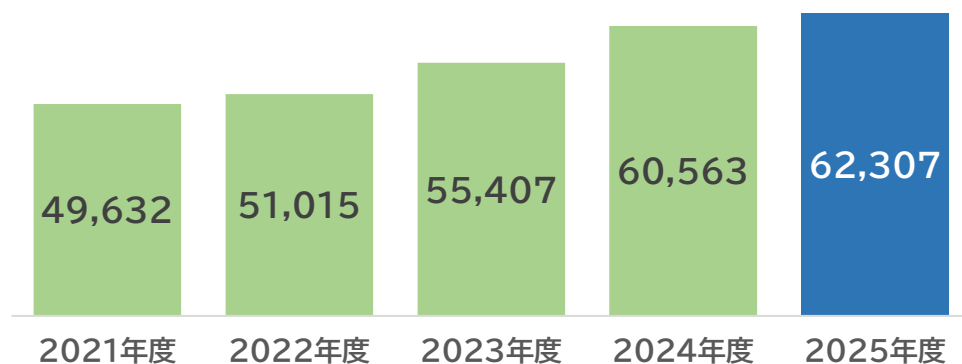
▲1,431 ▲37.9%

- -%

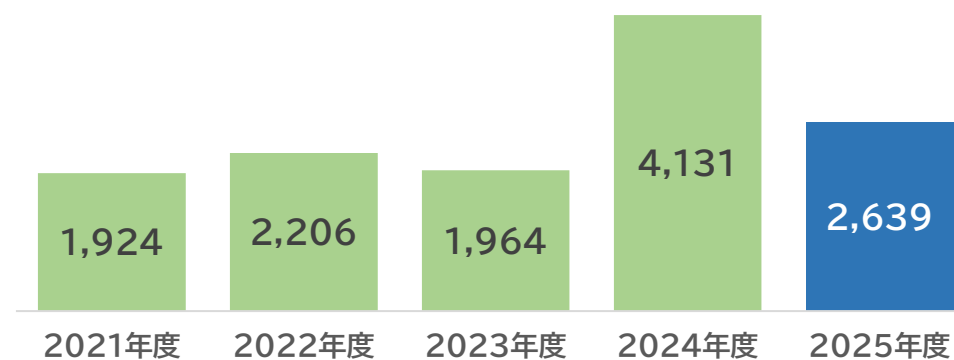
※前期は、訴訟の影響により当期純損失

- 医療ニーズの増大によりマキサカルシトールシリンジが増収に大きく寄与し、輸液やリクセルも堅調に推移
- 原資材・製造委託品・導入品の価格の高騰やベースアップを含む人的資本投資の増加により原価率は悪化
- DMX-200の開発進捗によるマイルストーンペイメントなど研究開発費が大きく増加し、営業利益・経常利益は対前年35%強の減益

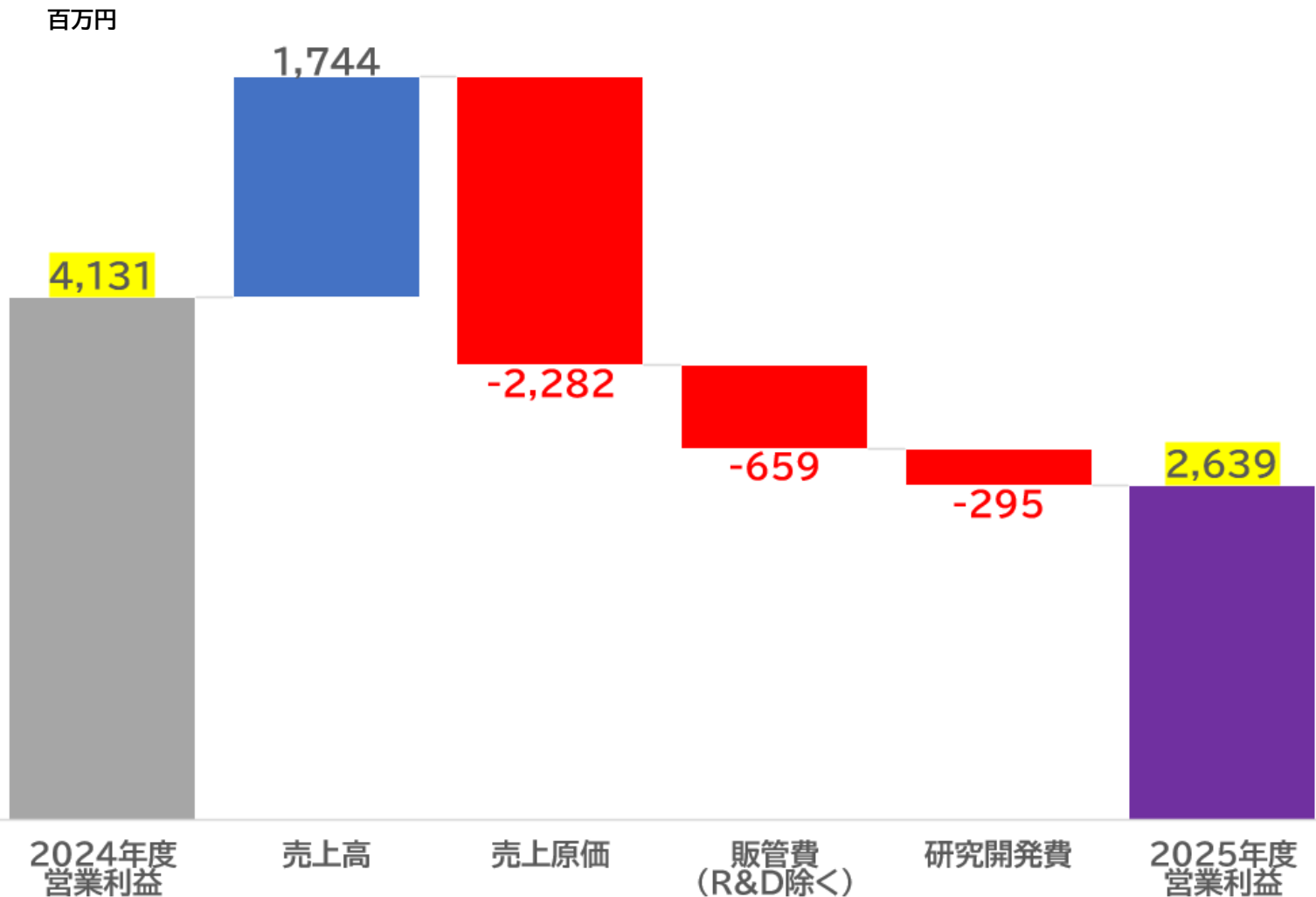
売上高の推移(百万円)



営業利益の推移(百万円)



2025年度通期 営業利益増減分析



売上高

- 腎・透析関連の後発医薬品の販売促進
- 不採算品再算定・最低薬価の引き上げ等の影響

売上原価

- 原資材・製造委託品・導入品の価格の高騰
- ベースアップを含む人的資本投資
- 設備維持対応費用の増加

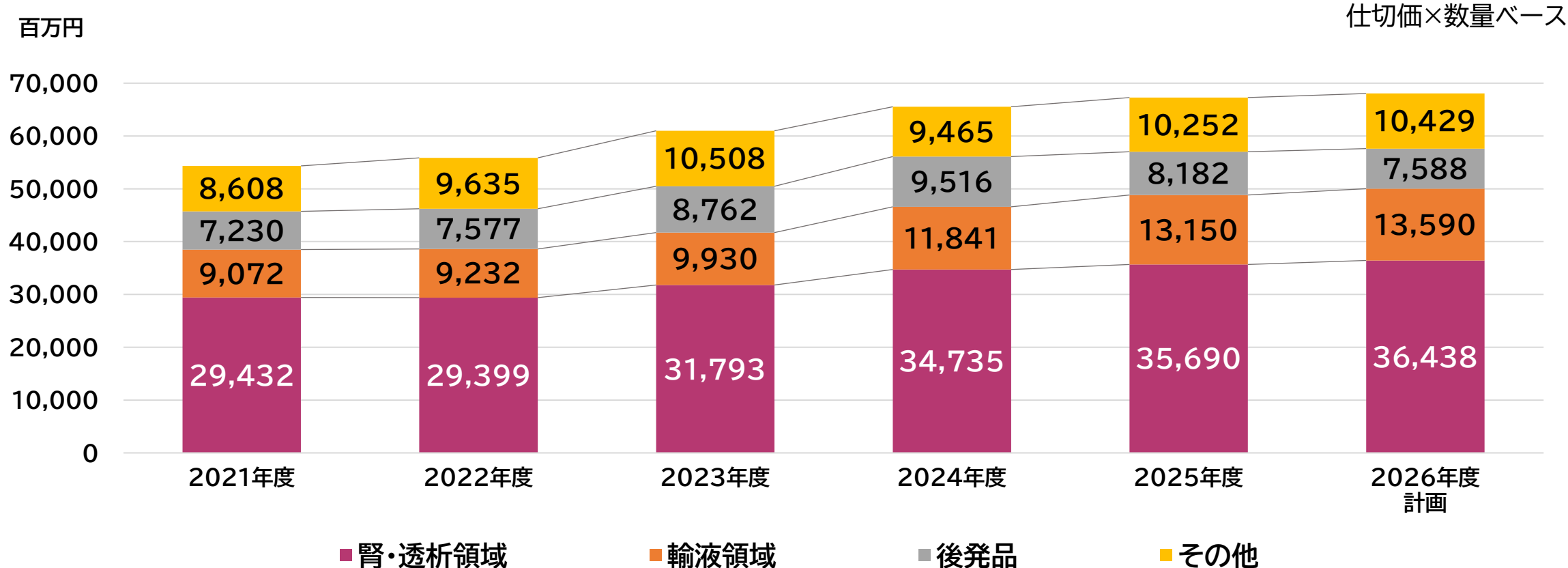
販売費及び一般管理費

- ベースアップを含む人的資本投資
- 基幹システム更新に伴う減価償却費の増加
- 運送関連費の増加

研究開発費

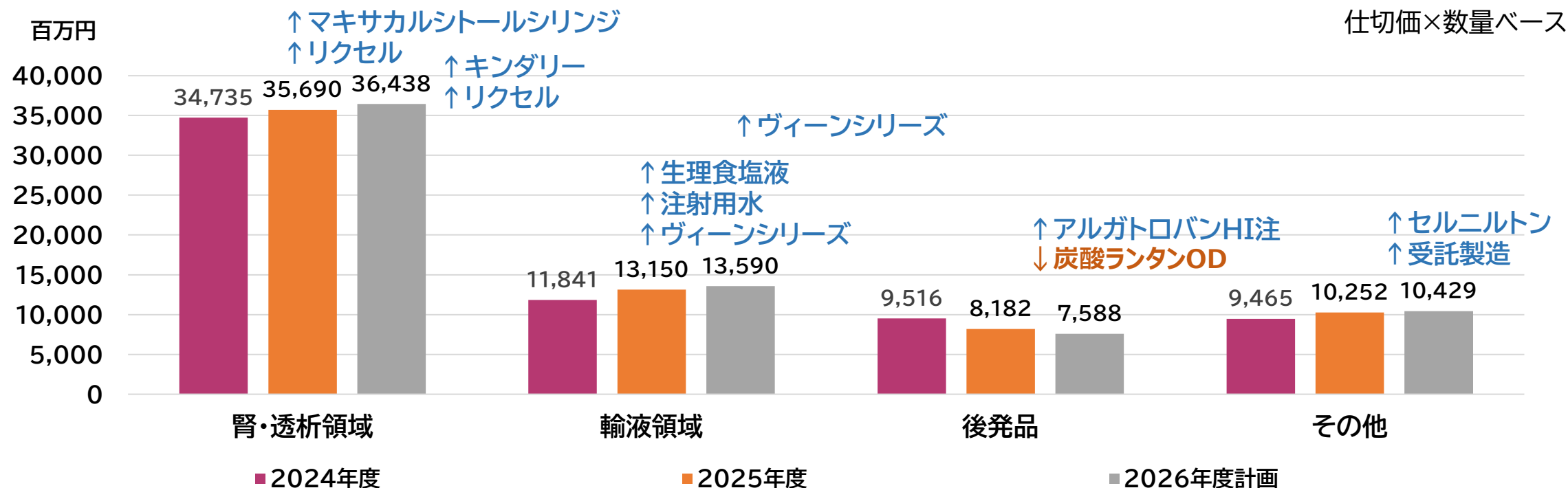
- DMX-200の開発進捗に伴うマイルストーンペイメント・治験費用の発生

主要領域別売上高(推移)



- 透析剤や輸液製剤の伸張、透析関連の後発品であるマキサカルシトールシリンジ(2018年1月発売)の増販、製造受託・導出・輸出事業が牽引し、売上高は右肩上がりで推移
- 今後、腎・透析領域や輸液領域での安定的な売上を軸として、腎・透析分野に強い当社の強みを最大限に活かし、この分野での新薬や後発品の開発・販売に注力し、また、ART(生殖補助医療用製品)、製造受託・導出・輸出事業も着実に進捗させることでさらなる飛躍を目指す

主要領域別売上高(同期比)



【主な増減要因】

腎・透析領域: 医療ニーズの増大によりマキサカルシトールシリンジが増収に大きく寄与し、リクセルも堅調に推移

輸液領域: ヴィーンシリーズを中心とした電解質輸液の新規増販に加え、大容量製品(注射用水1L、生理食塩液2L)のニーズ拡大による伸長

後発品: ドパコールが選定療養等により増収、アルガトロバンHI注が急性期領域で着実に浸透し増収、炭酸ランタンODは減収

その他: 疾患啓発活動による拡販が功を奏しセルニルトンが増収、受託製造も伸長



主要領域別売上高(医療用医薬品製品別)

仕切価×数量ベース

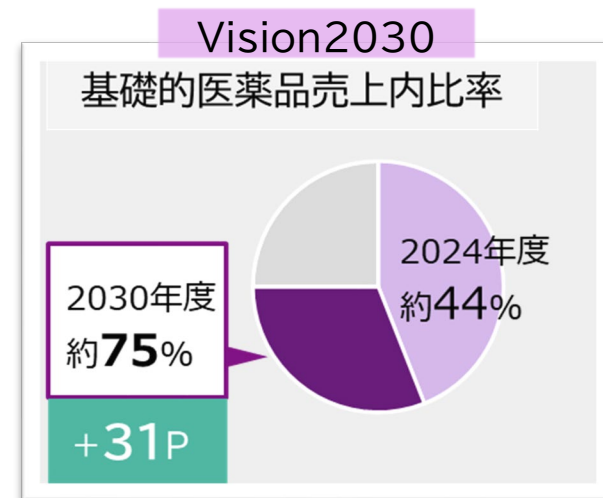
単位:百万円

製品名 (薬効)	2024年度	2025年度	増減率	2026年度 計画	増減率
キンダリー透析剤 (人工腎臓用透析液)	22,271	21,825	▲2.0%	22,122	1.4%
生理食塩液 (血液代用剤)	8,001	8,266	3.3%	8,214	▲0.6%
マキサカルシトールシリンジ (二次性副甲状腺機能亢進症治療剤)	3,563	4,511	26.6%	4,557	1.0%
セルニルトン (前立腺疾患治療剤)	3,293	3,569	8.4%	3,931	10.1%
炭酸ランタン (高リン血症治療剤)	3,270	2,985	▲8.7%	2,139	▲28.3%



医療用医薬品の売上構成 (2025年度販売数量実績ベース、薬価および分類は2026年度)

基礎的医薬品 + 供給確保医薬品 = 93%



供給確保医薬品 約77%

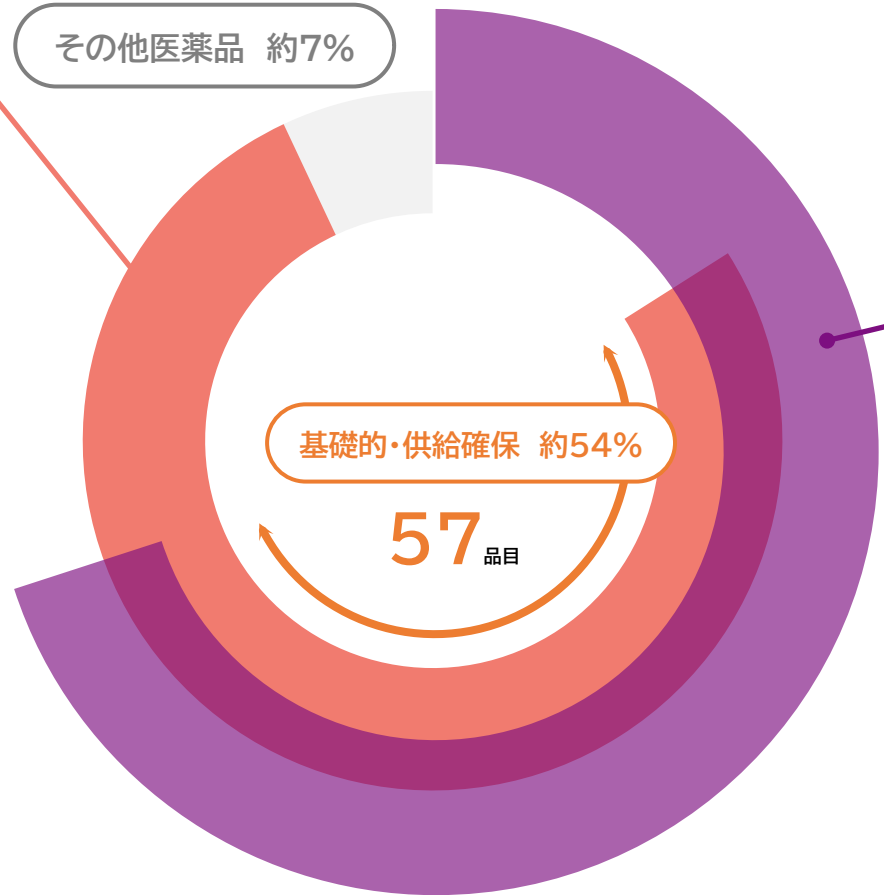
その他医薬品 約7%

107 品目

供給確保医薬品

特定医薬品であつて、次に掲げる事項を勘案し、その安定的な供給の確保を図る必要性が高いものとして、厚生労働大臣が厚生科学審議会の意見を聴いて指定するものをいう。

- 一 その用途に係る疾病にかかった場合の病状の程度
- 二 当該特定医薬品と代替性のある特定医薬品又は治療方法の有無
- 三 その製造に要する特別の技術の有無、原料又は材料の供給事情その他の製造又は供給に関して留意すべき事項
- 四 その他厚生労働省令で定める事項



基礎的医薬品 約70%

94 品目

基礎的医薬品

保健医療上の必要性が高く、医療現場において長期間にわたり広く使用され有効性・安全性が確立されており、継続的な市場への安定供給確保が必要であることから、一定条件下で薬価が維持される措置が行われた医薬品

2026年度 通期業績予想

(単位:百万円)	2024年度	2025年度	2026年度 通期業績予想		
	金額	金額	金額	増減額	増減率
売上高	60,563	62,307	63,200	893	1.4%
売上原価	44,030	46,312	47,500	1,188	2.6%
(原価率)	72.7%	74.3%	75.3%	—	—
販管費	12,401	13,355	13,700	345	2.6%
(研究開発費)	(1,718)	(2,013)	(2,100)	87	4.3%
営業利益	4,131	2,639	2,000	△639	△24.2%
経常利益	3,780	2,349	1,400	△949	△40.4%
当期純利益	△3,288	2,011	1,300	△711	△35.4%

【2026年度通期業績予想のポイント】

売上高: 透析剤を含む主力製品の増販及び不採算品再算定や最低薬価引き上げ等により増収

売上原価: 中東情勢に伴う原資材価格の大幅な高騰を、年内を目途とした一過性のものとして保守的に織り込み、原価率は悪化

販管費(研究開発費除く): 運送関連費の上昇や本社事務所移転等を含む人的資本投資により増加

研究開発費: Dimerix社へのマイルストーン支払い分は減少するものの、治験費用が通期で発生することなどにより横ばい



研究開発の進捗

医療用医薬品

開発コード (一般名)	対象疾患	作用機序	開発ステージ					開発形態
			第Ⅰ相	第Ⅱ相	第Ⅲ相	申請	承認	
DMX-200 (Repagermanium)	巣状分節性糸球体硬化症	ケモカイン受容体2 (CCR2)阻害作用			実施中			共同開発

DMX-200: ARBの併用により、ケモカイン受容体2(CCR2)をより強く阻害することによって、炎症の原因となる免疫細胞(マクロファージ)が腎臓へ過剰に集積することを抑制し、組織の炎症や損傷を防ぐことが期待される、巣状分節性糸球体硬化症(FSGS)を対象とした新規作用機序を有する候補物質です。

不妊治療・体外受精関連製品

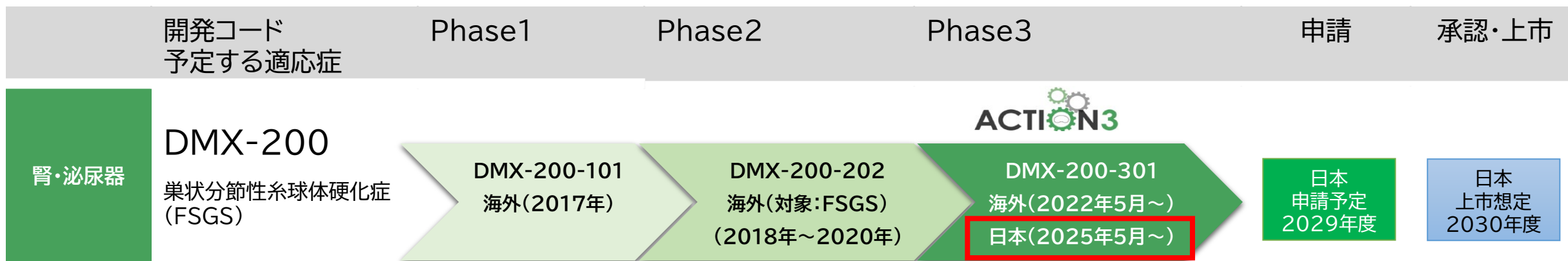
開発品目	使用目的	開発形態
胚培養用培養液	生殖補助医療	共同研究

胚培養用培養液(共同研究)

胚の質の低下に関与する蛋白質を抗体で抑制する新たな概念に基づく胚培養用培養液です。



研究開発の進捗 DMX-200開発進捗状況



巣状分節性糸球体硬化症(FSGS)

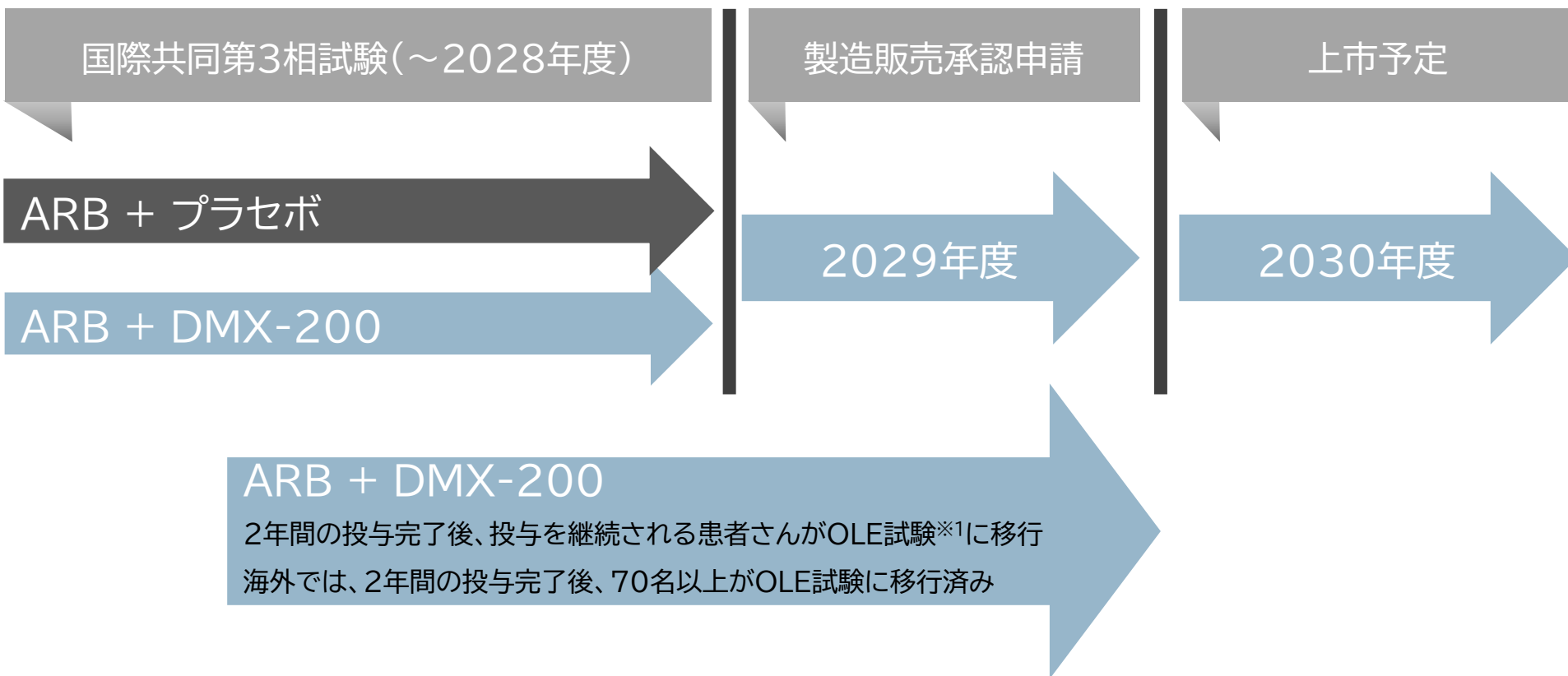
- 巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) は、一次性ネフローゼ症候群 ※1(指定難病222) の主要な原因の一種
- 日本国内におけるFSGSの患者数は、約1,400人 ※2、3、4
- 既存の治療法では、治療抵抗性を示したり、再発(40% ※5)を伴うことがあり、腎不全に移行するリスクが高い
- 腎移植後のFSGS患者において、再発が認められることもある
- 現在、日本においてはFSGSの効能・効果で承認されている医薬品はなく、ステロイドや免疫抑制剤に頼ることなく、長期的な治療効果と副作用が少ない、新しい治療方法を提供する薬剤開発が望まれている
- DMX-200は、主要地域(米国、欧州)で希少疾病用医薬品の指定を受けており、日本でも2025年9月29日に指定済み

※1:腎糸球体糸球体障害による蛋白透過性亢進に基づく大量の尿蛋白漏出と、これに伴う低蛋白アルブミン血症を特徴とする疾患 ※2:特定医療費(指定難病)受給者証所持者数, 年齢階級・対象疾患別, 令和4年
 ※3:難病情報センター 一次性ネフローゼ症候群(指定難病222) ※4:エビデンスに基づくネフローゼ症候群診療ガイドライン2020 ※5: Clinical and Experimental Nephrology (2020) 24:526-540

研究開発の進捗 国際共同第3相試験(ACTION3)について



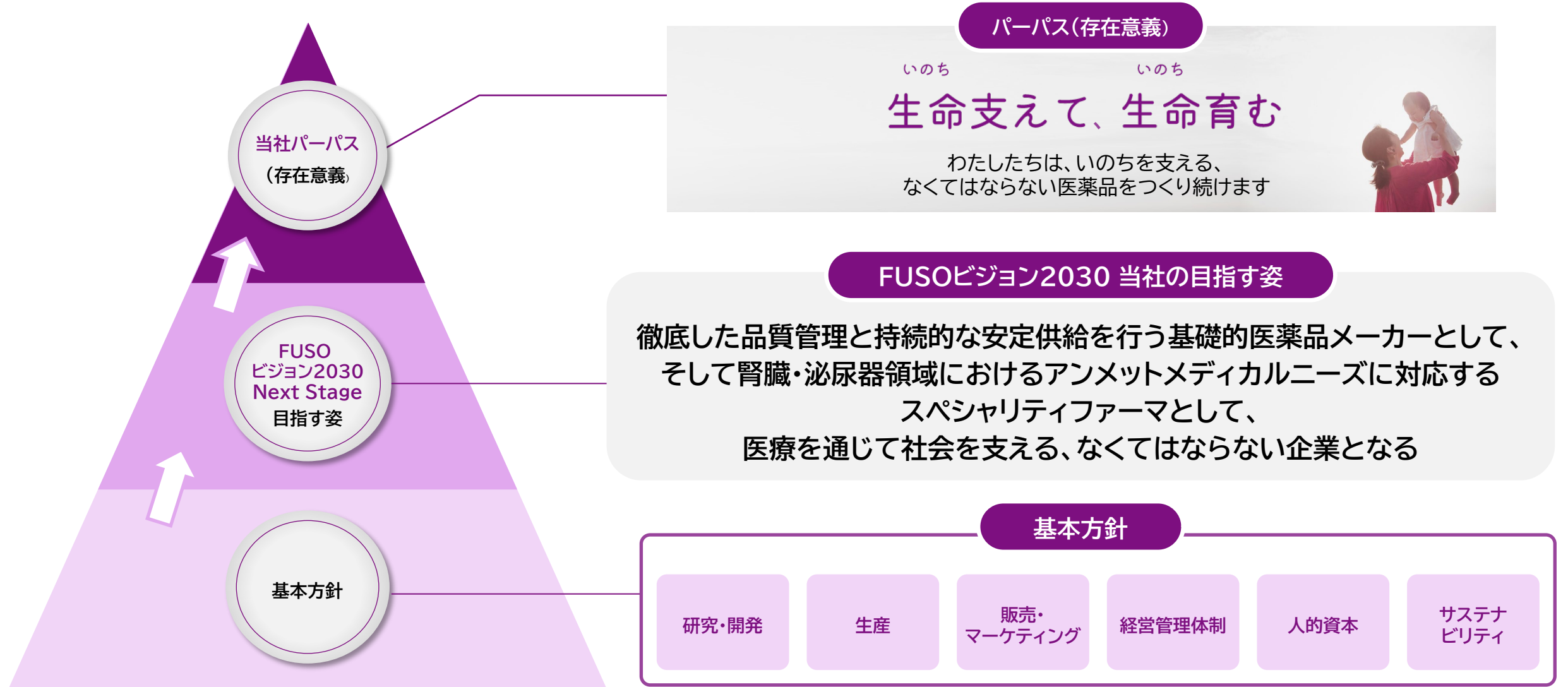
日本を含む21の国・地域で予定症例の286例を超える333名の患者さんが治験に参加



※1:Open Label Extension試験 治験終了後も希望する患者様に対して、薬剤の投与を継続し、長期的な有効性・安全性を確認するための試験

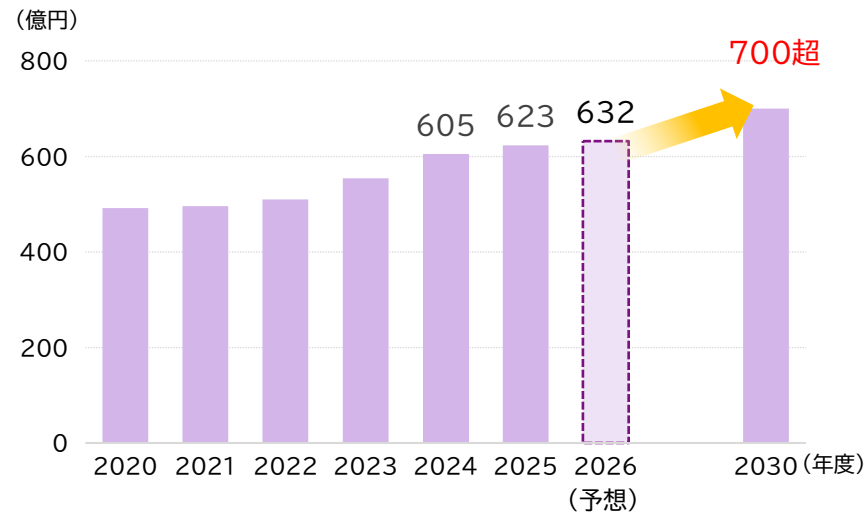


中期経営方針の進捗

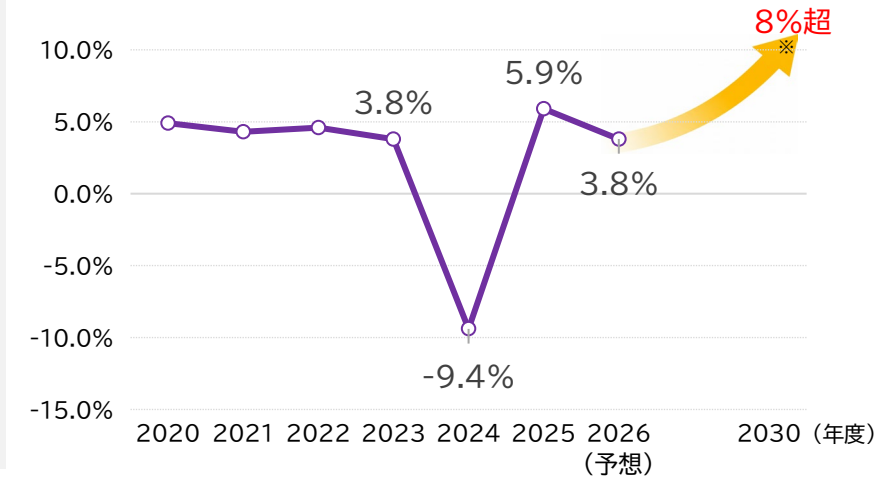


中期経営方針の進捗

売上高



ROE



※25.3期は訴訟関連損失引当金繰入額87億4,400万円を特別損失として計上



【岡山第二工場】

鉄骨5階建て
製剤棟約7,000㎡(延床面積) + 自動倉庫

2026年12月 着工
2028年3月 竣工
2028年末 生産稼働開始



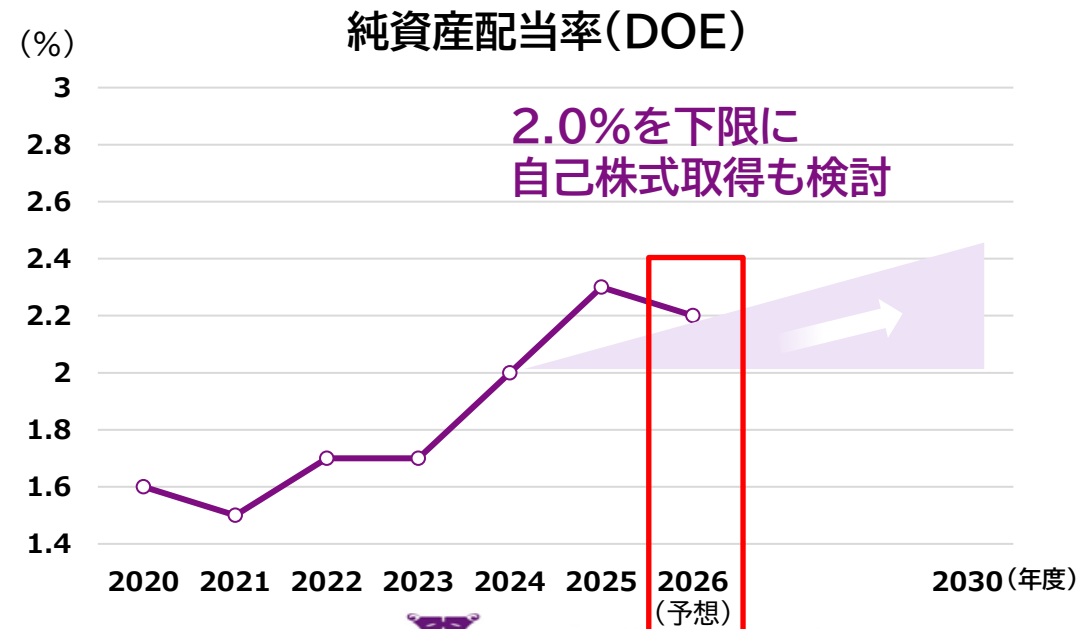
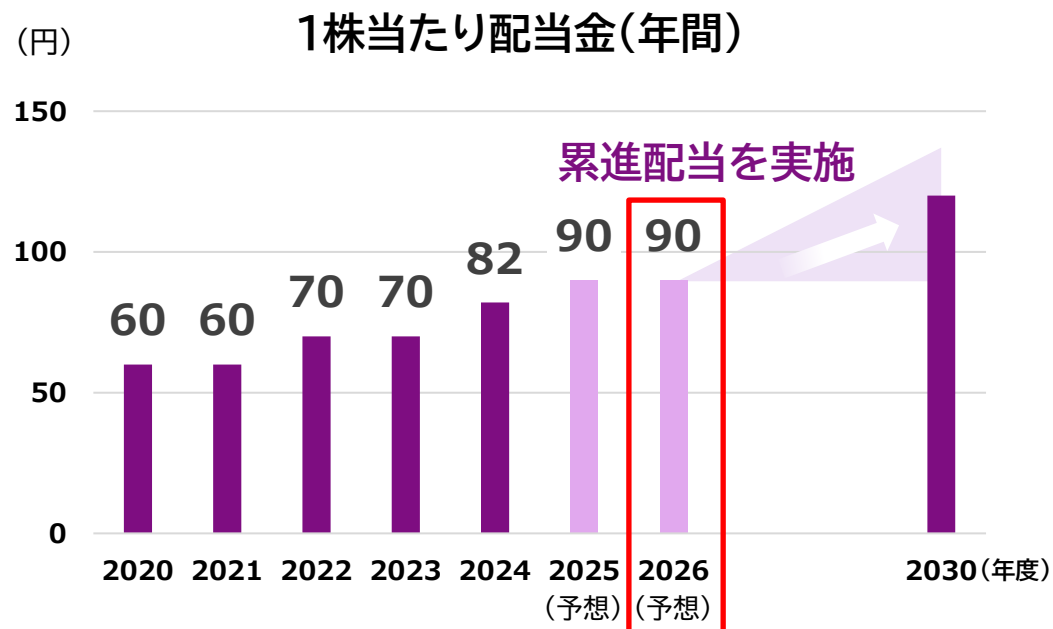
株主還元方針について

基本方針： 内部留保の充実を維持しつつ継続的かつ安定的な配当を行う

中期方針

- 安定供給体制のさらなる強化に向けた投資や成長分野への投資と、株主還元のバランスを考慮しつつ、2030年度まで累進配当とすることを目標
- 配当額に関してはDOE(純資産配当率)2.0%を下限値とし、加えてキャッシュフローの動向等も踏まえた機動的な自己株式取得も検討

2026年度は、年間90円(45円/45円)の配当を予定



将来に関する記述等について

本資料に含まれる計画・予測・戦略に関する記述につきましては、本資料発表時点において入手可能な情報に基づいて当社が仮定・判断したものであり、既知または未知のリスクや不確実性が内在しております。したがって、実際の業績等につきましてはあらゆる要因により異なる結果となる可能性があります。

本資料には医薬品(開発中を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告や医学的なアドバイスを目的としているものではありません。

問い合わせ先

扶桑薬品工業株式会社 経営企画部 広報室

kouhou@fuso-pharm.co.jp

06-6969-1131(代)

